

---

# B G M

月丘ちひろ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

BGM

### 【Nコード】

N5133Y

### 【作者名】

月丘ちひろ

### 【あらすじ】

BGMを探すのが趣味な武田空は、偶然6年前の友人 椎名日向と再開をする。懐かしさに惹かれた二人は6年越しのデートをすることになるのだが…… という感じの短編小説のプロローグ

最近時間が作れてないので短く書いて、分割して投稿します。完成したら、完成版として一つにまとめるのでよかったです読んでみてください。

## 再開（前書き）

短編を分割してかけば、もう少し早いペースで投稿できるかと思い悪戦苦闘中。

ニコ生でも毎日23:00から配信しています。

<http://com.nicovideo.jp/community/co601203>  
よかったら。

## 再開

街の空気は汚れていると言われているけど、そうでもない思っている。

オレは車が行き交う大通りを眺めながらそう思った。確かに、車の量は多いけれど、それと同じくらい緑がたくさんある。道路には並木があつたり、店の前では花が笑っていたり。どこのビルの屋上にも庭園がある。この街の政策らしい。

6年前、僕が中学生の頃のゴミだらけの風景とは大きくことなっていた。

オレはそつと目を閉じてイヤホンを耳に付けて、音楽をかけた。歌はあまり好きじゃない。歌詞があると、その歌詞の世界観に没頭してしまい、音楽を楽しめなくなってしまう。

だから、オレが好きなのはBGM。演奏だけの音楽だった。

今日の音楽はアコースティックギターの演奏。

オレはゆっくりと目を開けて目の前に広がる景色を見つめる。雲一つない晴天と緑が広がる街の景色にとても似合っている。

気分の乗ったオレはそのまま街を歩きだした。そとるとき、

「あの、すいません」

ふいに声をかけられた。振り向くと、ショートカットの女性が立っていた。ボーイッシュな容姿に相反するような落ちついた声。

でも、音楽を聞いているオレがわかるくらい、大きな声で呼んだらしい。彼女はオレの顔をみて、満足そうな笑みを浮かべた。

「やっぱり、空くんだ！」

「え、えつと……」

「私、椎名日向っていうの、覚えてる？」

「え、あ！ 日向ちゃん！？」

その名前をきいて、心臓がトクンと高鳴った。

椎名日向、その名前を聞くのは6年前になる。ゴミだらけだった

街の中で、唯一綺麗に輝いていた女の子。

「思いだしてくれた？」

「思いだすも何も、雰囲気が変わったから気付かなかったんだよ！  
久しぶり！」

オレはイヤホンを取り、ポケットにしまう。

「空くんは今、何をしてるの？」

「ん、BGM探しにちよつと出歩いてたんだ。日向ちゃんは？」

「私は、この街に来たのが久しぶりだからちよつとこの辺をみていこうかなあ思つて。なんだけど、6年前とはすごい変わっちゃってわからないの」

オレの心臓が音を立てる。改めて日向ちゃんをみると急に恥ずかしい気持ちになる。6年前とは言え、オレは日向ちゃんのが好きだったから。

「じゃあさ、久しぶりだし、CDショップ行かない？ ついでにさ、行きたいところあったら案内するからさ」

「本当？ そうしてもらえとすごい助かるかも！」

日向ちゃんは嬉しそうにはしゃぎながらオレに抱きついた。雰囲気に似合わない大人っぽい容姿が近い。オレの心臓はさらに鼓動を速めて行く。

「ちよ、ちよつと、まで、周りに人がいるから」

ドキドキしていることを、知られなくなかったオレは日向ちゃんを軽く押しのけた。彼女は少し不満をそうにしてたけど、数秒もすれば元の笑顔に戻る。

「じゃあ、私をエスコートしてね！」

「OK、まかせろ！」

そんな雰囲気でおレは日向と6年越しのデートをすることになったのである。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5133y/>

---

B G M

2011年11月17日21時32分発行